

1. 研究主題

コミュニケーション能力と豊かな国際感覚の育成
「話すこと（やり取り）」の小中連携を通して

2. 研究の具体 【 小中で行う外国語の指導 】

① 「話すこと（やり取り）」の小中連携

中学校：即興で伝えあったり、やり取りしたりできる生徒の育成 小学校：感じのよいやり取りができる児童の育成



〈中学生〉・話題に関連した質問 ・工夫して会話を継続 ・意見や感想を伝える

〈高学年〉・既習表現を使った会話の継続 ・即興的なやりとり
・反応（相づち・繰り返し・質問）して、感じよく会話を続ける

A: Do you like soccer? B: Yes, I do. I like soccer. / No, I don't.
A: Can you play soccer? B: Yes, I can. I can play soccer.
A: Let's play soccer!

〈中学年〉・相づちを打ちながら、自然なコミュニケーション
・反応（相づち・繰り返し・質問）して、感じよく会話を続ける

A: Oh, you like soccer. Why? B: It's fun.

〈低学年〉・1対1 だれとでも仲よく活動
・基本的な英語表現を使って会話

A: What sports do you like? B: I like soccer.

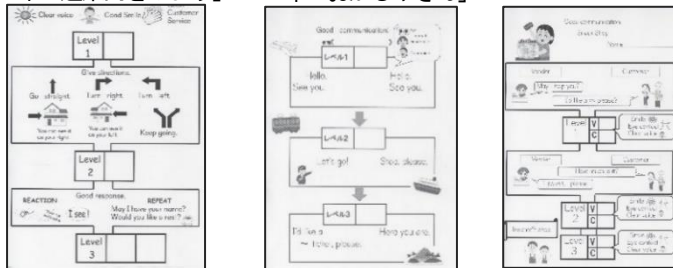
smile, eye contact, gesture,
clear voice

② 評価 ～小学校の取組～

(1) 自律的な学習者を育てるために

・評価を児童と共有するワークシートの作成と活用

5年「道案内をしよう」 3年「おかしやさん」 2年「のりものごっこ」



- ・学習意欲が高まる。
- ・自分の学びの様子が把握しやすくなる。
- ・チャンツや活動を何のために行っているのかを理解することができる。
- ・「できた感」を積み重ねることが、自律的な学習態度の育成につながる。

・インタビューテスト、コミュニケーションウィーク

(2) 評価方法 チェックシート…単元全体を通して作成

3. 研究の検証及び改善の手立て

小学校○ ワークシートは、内容がスモールステップで児童が自信をもって活動できる手がかりとなった。

- 児童が主体的に取り組めるよう授業内容の創意工夫をしていく必要がある。

中学校○ 積極的に会話を続けようとする生徒が増えた。

- 発話した文の正確性や「書く」力を身に付けるための指導を検討する必要がある。

